

月刊「ワークホームだより」1月号

発行:2023年12月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



1月の予定

1月6日(土) 全員通所日

☆普段通り作業の予定です☆

1月10日(水) 工賃支給日

1月13日(土) 全員通所日(季節行事)

☆昼食後12時に帰所予定です☆

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行います。
お迎えの方は17時をお願いします。

12月の出来事

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

12月3日、グループホーム希望山荘日笠で暮らしていた増田渚さんが亡くなった。増田さんはワークホーム高砂設立時からの利用者で、最近は納豆工房で日中活動を行っていた。彼女は人懐っこくて明るい性格で会うといつも笑いながら少し甲高い声で話をしてくれた。増田さんの悪性腫瘍が見つかった時はステージIVで手の施しようがなかったと聞いているが、それでも急変しての死であり、私自身は彼女の死を受け入れるのに少し時間がかかった。利用者の多くが、葬儀前日に増田さんとお別れを葬儀場に出向いてさせてもらった。涙する利用者もいたが、みんなで送ってよかったと思う。

この一年は、様々なことがあった。何もない年などないのだが、今年は特に慌ただしかったように感じる。年度当初に「作業員から支援員へ」という目標を掲げたが、多様な課題が複雑にからみあい実現は困難な状況である。作業量の見直しについてGOTOさんの協力を得るべく協議を進めているが、まだ先は見通せない。

3年に一度の障害福祉サービス報酬改定の議論が大詰めを迎えている。人材を得るには程遠い改定で福祉や介護に対する評価の低さを痛感する。優秀な若者は海外に流出し少子高齢化という国の形が変わりつつあるのに、政治の世界ではこの現実の受け止めがあまりにも鈍感なのではないかと憤りさえ覚える。

「政治とカネ」の問題は、ひどい状況である。先日、三人の孫と「人生ゲーム」をしていたら小学校2年生の孫が、「うらがね」という言葉を発したのには驚いた。小さい子どもたちの世界にまでこの嫌な響きの言葉が浸透しているのかと思うと「ぞっ」とする。腐敗した政治、国民の疲弊にあまりにも鈍感な政治、この国はいったいどこへ行ってしまおうのだろうか。

2023年の漢字は「税」だった。インボイス制度の導入で当法人の経理業務量は倍増したと藤原事務局長が嘆いている。所得税の減税は6月になるとか。越年に苦しむ国民の声は霞が関には届かない。政治の中心を担う議員さんたちは、自分たちは裏金で自由気ままにやっている。そんなことが許されるのか。税金を財源とする私たちの福祉サービス報酬は、多少は上がるとの見通しであるが、その分、様々な締め付けが危惧される。生活介護事業においては、サービス提供時間を7時間標準として提供時間が短いと減額されるシステムが新たに導入される。サービスの「質」を担保する議論の中で、財務省から「サービス提供時間で報酬額を変える」との案が出された。9時～16時の提供時間の中に送迎を入れないということになれば、いつ事務時間を位置づければいいのか。株式会社などが運営する事業所で悪質なサービスが横行しているから「時間」で「質を計る」というのが財務省の論理らしい。厚労省はその論理に反論できなかった。「時間外労働は極力しないこと」「決められた事務は滞りなくやること」「矛盾は現場の工夫で乗り越えること！」現場いじめの論理の中で、「福祉のこころ」が荒んでいくのを痛感する。

2024年こそは良い年であってほしいと願うが、社会の客観的状況は決して明るくない。そんな状況の中でもワークホームは、前を向いて歩いていこうと思う。利用者職員達の明るい笑顔で、しっかりとスクラムを組み社会の荒波に立ち向かいたいと思っている。2024年も関係各位の応援をよろしくお願いいたします！

東はりま実習生 5名を迎えて



東はりま特別支援学校高等部2年生の5名の方が11月6日から11月10日、11月20日から11月24日、12月4日から12月8日の3回に分かれて実習に来られました。5名ともたたみ班でタオル畳みや防水畳み等を行って頂きましたが、実習初日は不安や緊張もあったと思いますが一生懸命に覚えようとする様子がみられ、畳み方も日を追うごとに綺麗になっていました。5日間と短い期間でしたがまたワークホームに来ていただきたいと思いました。(長瀬)

法人全体で虐待防止研修



12月2日(土)に法人全体で虐待防止研修が行われました。社会福祉法人あかりの家のすべての事業所の職員、パート職員が参加し、講師には関西福祉大学の教授である谷口先生に来ていただきました。これまで各事業所では定期的に虐待防止研修を行っていましたが、法人全体では初めての試みでした。普段一緒に働くことのない事務局の方や相談員の方の違った視点や考え方を聞くことができ、とても貴重な時間となりました。(花岡)



クリスマス会



in ユーアイ帆っとセンター

12/23 (土) にワークホーム・納豆工房・保護者会共催のクリスマス会をユーアイ帆っとセンターで開催しました。このような形でイベントを行なうのは4年ぶりでした。私をはじめ、半分以上の職員が初めてのクリスマス会でもありました。みんなで頭に飾りを付け、クリスマスツリー飾りつけリレーゲームでは、保護者の方にも参加していただき楽しい一時を過ごしました。また、山崎支援員による指導のもと、利用者、保護者全員で合唱するなど、コロナ禍ではできなかったことを存分に楽しむことができました。利用者さん達が歌っている姿を初めて見ましたが、とても良い表情をしていて感動しました。来年も今年のクリスマス会を超えるようなレクリエーションを行なえれば良いなと思いました。(新山)



2023 年を振り返って



今年度より本格的に5日稼働がスタートしました。当初は作業工程などでイレギュラーがあり利用者さんを困らせることが多々ありました。しかし、みなさんの対応力のおかげでなんとか乗り越えることが出来ました。今年度は、コロナが緩和されたことで季節行事、日帰り旅行を実施することができ作業場で見られる姿とは違う表情が見られとても楽しい時間を作れました。今後もこのような行事を増やし利用者さんの日頃引き出せない表情を引き出していきたいと思います。今年度はまだ続きますが今年もみなさんお疲れさまでした。(吉中)

保護者懇談会 実施!

12/11(月)から12/25(月)まで利用者、保護者、職員による懇談会を実施しました。普段、保護者の方を含めて利用者さんと話す機会が少ないため、大変有意義な懇談会となりました。利用者さんの将来の為に、またワークホームに通所をすることが楽しいと思えるように、保護者の方々からの要望や情報を共有しながら今後の支援に活かしていこうと思いました。(吉中)



月刊「ワークホームだより」2月号

発行:2024年 1月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



明るく風通しの良いチームと支援の質

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

最近、特に強く思うのは、支援の質を高めるために必要な条件とは何かということ。このことを考える際には、二つの視点が必要だと思う。一つは、個人の力という側面で、知識・技術・経験・感性・人柄・総合的な人格など、職員ひとり一人の特質に関わる側面、そして二つ目には、その人たちの集合体が生み出す側面、つまりはチーム力に関わる側面である。

この二つは、密接に関係していて相互に関係しながら「らせん階段」を横から見るような感じで、ゆっくりと上昇しているときには「支援の質」が向上していると考えていいのだと思う。しかし、現実にはそう甘くはない。「らせん階段」を上から見ているような感じで、同じところをぐるぐると回っているように見えるし、そんな状態ならまだ良い方で、「らせん階段」をゆっくりと或いは素早く降りていくのを横から見ているような感じにさえ思える時がある。

抽象的な言い方になるが、支援の質を評価・判断するときには、今自分がどのような立ち位置で個人や集団を見ていて、どのような見え方になっているのかをできるだけ客観的に考える習慣をリーダーは持たなければならないと思う。一方向からの視点ではなく多角的に見る視点こそが必要だと言える。そして同時に、集合体の中に自分も含まれていることを意識しておく必要がある。

以上のような視点にたって現在のワークホームを見てみると、一人ひとりの力量にはまだまだ課題が多いように思う。個々人の学習と療育実践の経験をもっともっと積み上げなければならないだろう。しかし、集合体としてのチーム力では、個人の経験や知識不足を互いに補い合える明るく風通しの良いチームが出来つつあると評価している。つまりは、支援の質を高めるための準備が整いつつあるということである。

令和5年度も残すところ2か月となった。「作業員から支援員へ」のテーマは、具現化されているとは言い難く、次年度に引き継がれていく。しかし、支援の質を高めるための準備が整いつつあることを踏まえれば、個人とチームの今後に期待してもらってもいいのではないかなと思う。関係者の方々には、これからも叱咤激励をさせていただきながら、職員たちを暖かく見守ってほしいと願っている。



2月の予定

2月14日(水) 工賃支給日

2月25日(日) 保護者会役員会

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行います。
お迎えの方は17時をお願いします。



駐車場についてのお願い



昨年、7月に県環境部の立入検査があり使用水量についての指摘を受けました。指摘については、真摯に受け止めGOTOさんと協議してコンプライアンス遵守を確認し、現在、使用水量は基準に適合する形で運営を行なっています。ただこれまでお取引のあったお客様を断ることができないため、未処理の洗濯物が駐車場にあふれているという状況です。GOTOさんとしても貸倉庫を契約し削減に向けた取り組みを行なっていますが、当分の間はラックの減少は見込めない状況です。

お迎え等、車でお越しの際は、安全を考慮して1月25日(木)より、ワークホーム北側の第2作業場駐車場を使用することと致します。

ご迷惑をおかけしますがご理解・ご協力よろしくお願いします。

(楠)



第2作業場駐車場
(送迎の方はこちらをご利用ください)



駐車場の現状

今月の担当は重田桃華でした🐱

曾根天満宮へ今年も新年のご挨拶

1月13日（土）に利用者さん全員で曾根天満宮に初詣に行ってきました。天気も良く日差しもあたたかかったので絶好のお散歩日和でした。順番に並んでお参りをし、今年もみんなで記念写真を取りました。

その後は納豆工房に寄り道し、各々好きなお菓子やジュースを買っておられました。予定よりも少し早くワークホームに帰ってきたので、年末にできなかった作業場や食堂の掃除をしました。長い距離を歩いた後の掃除だったので少し疲れたと思いますが、しっかり綺麗になりました。今年も皆さん元気に過ごされますように！（重田）



今年も記念の集合写真を撮りました
マスクがないと明るく見えます！
皆さんいい笑顔です！！

並んで初詣に向かいます！
車や自転車が来ると、「危ないよ～」と
声を掛け合っていました☆



🌸🌸🌸 今月の職員研修 🌸🌸🌸

高砂市虐待防止研修



1月22日に高砂市障害者虐待防止研修に参加しました。虐待は大きく5つ（身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、性的虐待、経済的虐待）に分類されており、事例をもとに他事業所の方とグループワーク等を行いました。その中で虐待はどこでも誰でも起こり得ることで、日頃から意識することが大切だと改めて感じました。虐待防止に取り組むことで利用者さん・職員共に働きやすい環境を作れるようになり、より良い支援に繋がっていくと思いました。（長瀬）



兵庫県強度行動障害支援者基礎研修

1月16日、23日に兵庫県強度行動障害支援者基礎研修を野村と花岡で受講しました。16日は強度行動障害の基礎的なことの講義を受け、23日はグループワークがメインで行動障害の支援について話し合いました。他事業所の取り組みや考え方を聞くことができとても貴重な機会になりました。また、23日の研修では亀山副施設長が講師をされました。来月には実践研修も受講予定なのでしっかり勉強してきたいと思います。（野村）



講師・亀山副施設長



真剣に話を聞く野村支援員

園長にももらったお賽銭を投げ、
“二礼二拍手一礼”を何度も確認しながら
新年のご挨拶やお願い事をされていました！
真剣な表情です！



お買い物出来てご満悦の様子です♪

毎日使う食堂や作業場を
一生懸命掃除しました☆



月刊「ワークホームだより」3月号

発行:2024年 2月 23日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



ワークホーム高砂がめざす就労移行支援

ワークホーム高砂施設長 齋藤克己

ワークホーム高砂は、2003(平成15)年4月の開設から21年が経過し、次年度には新たなステージの準備を始めます。新たなステージとは、就労移行を旨とする障害者への本格的な応援で、2025(令和7)年度を目途に新しく始める「就労移行支援事業」を指しています。

ワークホーム高砂は、これまでも「就労移行」を旨とする利用者に対しては積極的に企業やA型事業所、就労移行支援事業所への送り出しを行い、一定の成果をあげてきました。しかし、実績としては少なく、年に1人から2人程度で全く実績のない年もありました。その理由としては、①そもそも多くの利用者が高い工賃を求めてワークホームを利用しており、企業就労へのモチベーションが全体としては低いこと ②事業所の目的が企業で働くのが難しい障害者の「働く場の提供」や高工賃を旨とすることに重点化しており、企業への就労移行を主たる目的にはしていないこと ③日常の活動が生産活動(クリーニング作業)であり就労移行へのプログラムを意識したものではないため利用者の就労移行意欲を十分に喚起するものにはなっていない等があげられます。環境がその人の成長を促すように、就労意欲の高い利用者が多ければ多いほど利用者の就労意欲も高まり、同時に職員の就労支援意欲も高まります。したがって2025年度を目途に就労移行を目的とする新たな事業を立ち上げ、就労継続B型や生活介護の利用者とは異なる新たな「就労移行支援プログラム」を提供し、企業等への就職がスムーズに行える支援体制を整えることとしています。社会的就労を意識したソーシャルスキルトレーニング(SST)をはじめ、働くための基礎体力や働く姿勢などにも力点を置いたプログラムを提供したいと考えています。また、企業の協力を得ながら職場実習にも取り組み、就職した後のアフターフォローにも力点を置きたいと考えています。高砂市内には、就労移行支援事業所がありません。こうした状況を踏まえ、高砂市内に居住する特別支援学校に通う企業就労を旨とする学生さんとそのご家族から頼りにされる事業所を旨としたいと思えます。

以上のように、次年度は新たな事業を準備する年となりますが、これまで進めてきた就労継続支援B型事業や生活介護事業については、物価高や最低賃金の上昇率を少しでも反映した適正な工賃が支給できるよう委託料の見直しを含めた協議をGOTOさんと継続していくこととしています。作業環境の改善とともに、暑い夏の作業時間の短縮なども視野に入れながら利用者の高齢化と重度化にも配慮した作業内容について、GOTOさんの協力が得られるよう話し合いを進めたいと思えます。

春はそこまでやっています。2月6日には障害福祉サービス事業の報酬見直しが厚生省から具体的に提案されました。次年度は新たな事業の準備とともに、新しく打ち出された生活介護事業のサービス提供時間などについて利用者やご家族のご理解とご協力を得なければなりません。春の訪れは多様な課題の幕開けでもあります。前を向いて歩むワークホームでありたいと思えますので、どうかよろしくお願いします。

3月の予定

3月13日 工賃支給日

3月23日 1年を振り返る会

@ユーアイ帆っとセンター(高砂ユーアイ福祉交流センター)

※詳細については後日別紙にて通知させていただきます。

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の主な内容

令和6年度は、障害福祉サービス報酬の改定年度です。これは、社会情勢や社会的ニーズの変化を受けて新たなサービスの創設や報酬単価を3年に一度、定期的に見直すものです。報酬改定は、事業所経営に直結する重要なもので、今回の改定では、生活介護事業に大きな変化がみられます。また、B型事業についても、高い工賃を支給できない事業所の報酬が極端に下げられる予定です。ワークホームは今の工賃を死守することでB型事業の安定経営は一定保たれると予想されます。しかし、生活介護事業においては、サービス提供時間ごとに報酬が決められる新たな制度が導入され、送迎時間がサービス時間にカウントされないなど、今の状態では生活介護事業が成り立たなくなる可能性がでてきました。サービス時間を延長するなど当面の対策を早急に考える必要があり、関係者へのご理解とご協力をお願いすることになります。下の枠内に今回の改定ポイントを示しましたが、何れにせよ、現場実態にはそぐわない制度になることは明らかです。今後も関係団体等を通じて厚生労働省に政策提言していきたいと考えています。

副施設長 亀山 隆幸

……【生活介護事業の改定ポイント】……

《現在の基本報酬》

支援区分4・・・ 585単位
支援区分5・・・ 853単位 →
支援区分6・・・1, 147単位

《改定後 サービス利用時間が現在と同じ5.5時間の場合》

支援区分4・・・ 396単位(-189単位)
支援区分5・・・ 579単位(-274単位)
支援区分6・・・ 782単位(-365単位)

《改定後 サービス利用時間を6時間以上に延長した場合》

支援区分4・・・ 553単位(-32単位)
支援区分5・・・ 808単位(-45単位)
支援区分6・・・1, 087単位(-60単位)

※ 現在、加古川送迎の方は、約5時間半のサービス利用となっていますが、改定後は、6時間以上を確保するため30分以上のサービス延長を考えています。詳細については、後日連絡させていただきます。ご理解のほど、よろしくお願いします。

……【就労継続支援B型事業の改定ポイント】……

《現在の基本報酬》

平均工賃4万5千円以上・・・ 625単位 →

《改定後の基本報酬》

平均工賃4万5千円以上・・・746単位(+121単位)

※ 現在の平均工賃を支給する場合には、121単位のプラス改定となる予定です。

あかいの家法人内連携を目指して！！



昨年の11月にワークホームに実習にきてくれた東はりま特別支援学校の生徒さんが、同法人の児童デイサービス“ふたば”を利用しています。卒業後の進路としてワークホームの利用を予定していることから、先日児童デイにおける利用の様子を見学させていただきました。

ワークホームでは緊張した面持ちの印象が強かったのですが、児童デイではリラックスした様子が見られました。また、実習にきていた生徒さん以外にも小学生くらいの利用者さんがおられ、こだわりや多動など自閉症特有の動きに圧倒されました。“ふたば”で働く職員の皆さんは、パワフルで明るく、とても良い刺激になりました。(重田)

いつもおいしい給食をありがとう



～ひでかつ給食さんと給食会議を実施！～



※みんなでおいしい給食を食べてる様子です。

2月14日、利用者さんの弁当を届けてくれているひでかつ給食さんと『給食会議』を行いました。前回の会議で「デザートの種類を増やしてほしい」という利用者さんの要望をお伝えしたところ、栗のムースやストロベリーチーズのムース、ラムネ、マシュマロなどいろいろなデザートを出して下さるようになりました。利用者さんからは喜びの声がたくさん上がっています。これからも利用者さんに喜んでいただけるお弁当を提供できるよう、ひでかつ給食さんと協力していきたいと思っております。(新山)

来年度もやります。農業作業(´_`)v



先日、前橋農園さんと会議を行い、来年度も今年度に引き続き「田植え体験・稲刈り体験」と「スイートコーンの植付・収穫作業」を行うことが決まりました。スイートコーンはワークホーム高砂近辺の休耕田を使用させてもらう予定になっています。農福連携を通じて、余暇を楽しむとともに、地域に少しでも貢献できればいいと思います。体験時期は、田植えが6月上旬、稲刈りが11月初旬、スイートコーンの植付が4月中旬、収穫は7月中旬頃を予定しています。楽しみにしておいてください。(吉中)



※スイートコーンの植付・収穫を行う休耕田です。

隙間時間で工場の掃除を



最近、洗濯水量の関係で作業量が全体的に少なくなっており、タオル、たたみ作業は週末にはきれいに片付きます。そのため時間を有意義に使いたいとの思いから、タオル班たたみ班を中心に1階作業場や2階多目的室の清掃を行っています。みなさん一生懸命床をこするのできれいなところとそうではないところの差が凄いです(笑)。この機会に普段できない清掃や作品づくりをみんなで協力しながら行いたいと思います。(重田)



月刊「ワークホームだより」4月号

発行:2024年 3月 25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



次なる挑戦！

ワークホーム高砂施設長 齋藤 克己

令和6年度を迎えます。3月6日の理事会で承認を得た「令和6年度事業計画」の基本的な考え方については次のとおりです。改めて確認しておきましょう。

本年度は、報酬改定に伴う経営状況を見定めるとともに、令和7年度を目途に新規開設を予定する就労移行支援事業の「準備年」として位置付ける。

生産活動分野については、(株)ゴトウ・アズ・プランニング(「GOTO」)との協業を継続し、就労継続支援B型事業の利用者については、平均工賃4万5千円を維持する。また、生活介護事業の利用者については、生産活動に加え余暇活動にも取り組み最低6時間以上のサービス提供時間を確保する。また、利用者に負担感のない適切な生産量や委託料の値上げなど、運営課題についてGOTOとの協議を継続する。

就労支援分野については、これまで就労継続支援B型事業の利用者を企業就労やA型事業所、就労移行支援事業所へ送り出してきた実績を踏まえ、令和7年度を目途に就労移行支援事業が開始できるよう開設に向けた検討とその準備に入る。

施設長の交代を踏まえ新体制への移行を混乱なく進めながら、新たな利用者を獲得するための事業所説明会を開催するなど、関係者へのPRを積極的に行う。

以上のように、令和6年度は報酬改定の影響を評価しながら令和7年度に開始する「就労移行支援事業」の準備年として位置付けています。新事業は、多機能型で定員6名を予定しています。新事業を利用してもらえるかどうかは、社会就労が可能となる有意義で魅力あるプログラムを利用者さんに提供し実際に就労に結び付けられるか、そして、どれだけ丁寧にフォローできるかが重要なポイントです。実績の積み上げが企業や学校、保護者さんたちからの信頼につながります。多くの社会福祉法人が就労移行支援事業から撤退する中での事業開始となります。大変ハードルの高い挑戦となりますが、このことを自覚してチーム一丸となって準備を進める予定です。どうか、関係各位のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

私は、11年間務めたワークホーム高砂の施設長を3月末で退任します。利用者さん、保護者さん、そして職員達、多くの関係者の方々に大変お世話になり支えていただきました。心から感謝申し上げます。令和6年度からは、「社会福祉法人あかりの家経営計画」の進行管理など理事としての職務に専念することとしておりますので、変わらぬご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

4月の予定

4月10日(水) 工賃支給日

4月27日(土) 保護者会役員会

※4月15(月)~4月19(金)にスイートコーンの

植え付けを行なう予定です。

※工賃支給日(毎月第2水曜日)については、16時30分まで作業を行います。お迎えの方は17時にお願ひします。

避難訓練を実施しました



2/26(月)に避難訓練を行ないました。今回は利用者さんやパートさんには伝えず、抜き打ちで行ないました。抜き打ちということもあり、音が鳴ると少し驚いている人や「また誤報か」と思い、黙々と作業している人もいました。職員が避難ルートへ誘導し避難してもらいました。避難ルートもいつもとは違うルートで避難をしたため、いつもより遅いタイムとなりました。タイムは2分13秒でした。今回の抜き打ちでの訓練は、職員・パートさん・利用者さんにとって良い訓練になったと思います。(花岡)



今月の担当は、長瀬圭佑でした。

3年ぶりの開催♪ 1年を振り返る会・実践報告会

～ワークホーム高砂・納豆工房なっところちゃん・保護者会合同開催～

3月23日、ユーアイ帆っとセンターにおいて「1年を振り返る会」をワークホーム高砂と納豆工房なっところちゃん、保護者会の三者共催で行いました。参加者は78名で、沢山のご参加をいただき、本当にありがとうございました。

9時30分から始まった「振り返る会」は、中村保護者会長、長谷川施設長の開会あいさつに始まり、1年を振り返るDVDの鑑賞や支援員による実践事例の発表などを行いました。また、保護者の方々の振り返りでは、参加されたお母さんたちのお話を直接お聞きすることができ、利用者さん、保護者さんを交えた充実した時間を過ごすことができました。閉会では、本年度で退任される齋藤園長の振り返りや退任のご挨拶もあり、ワークホーム高砂の歴史を振り返ることもできました。今年度の反省を来年度に活かし、今後もより良い事業所作りができるよう保護者さんの力もお借りしながら、明るい未来に進んでいきたいと思っております。（吉中）



事業所説明会を開催



2月23日、3月5日の両日、ワークホーム高砂と納豆工房なっところちゃんの事業所説明会を開催し、延べ40名の保護者さんと当事者さんが参加してくださいました。今回の事業所説明会では、ワークホーム高砂が今後目指そうとする障害を有する全ての方への「働く」をサポートする事業展開について説明させていただきました。参加者の多くは、特別支援学校中等部の方で、若いうちから将来のことを考えておられるようでした。

これからもこうした説明会をとおして、ワークホーム高砂の事業を知ってもらうとともに、障害を有する方のニーズを把握し、今後の事業展開に繋げていきたいと考えています。（楠）

キラキラ就活生見学会

3月7日と13日、「社会福祉法人あかりの家職員採用見学会」があり、大学3年生の学生さん5名がワークホーム高砂を見学されました。大学で福祉や保育を学んでおられる学生さんが多くいたこともあり、作業場で落ち着いて淡々と仕事をされる利用者さんに驚きつつ興味を持って見学されていました。学生さんの中には、卒業論文のテーマが「B型の工賃について」という方もおられ頼もしく思いました。

私は、作業場で仕事の内容や利用者さんの特性などについて説明させていただきましたが、学生さんの熱心な質問に応えながら、改めてワークホームで働くことの難しさや面白さを考えさせられました。今回見学された学生さんが採用試験に来てくださり、一緒に働けたら嬉しいなと思っています。（重田）



農福連携を中心とした工賃向上研修に参加

3月13日、兵庫県セルフセンター主催の工賃向上研修会が姫路じばさんビルで開催され参加しました。工賃アップのヒントやアイデアを学ぶという趣旨で、滋賀県の農福連携の実践事例や県内の福祉サービス事業所における農家との地域連携を軸とした事業展開など、農福連携事業を中心とした工賃向上について学びました。ワークホームにおいても本年度は田植えや稲刈りの行事を開催し、次年度はスイートコーンの植え付けなど地域の農家さんと一緒にできる行事を企画しています。まだまだ小さな試みですが、これからも地域とのつながりを大切にしながら、少しでも利用者さんの工賃が上がるよう職員一同努力していきたいと思っております！（重田）



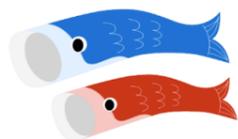
月刊「ワークホームだより」5月号

発行:2024年4月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

就任の挨拶



ワークホーム高砂施設長 長谷川 博信

このたび、令和6年4月1日付けでワークホーム高砂施設長を拝命いたしました。齋藤前施設長が築きあげ、育てたワークホーム高砂の志を引き継ぎ、これまでどおり「働くなかでたくましく」を合い言葉に、利用者、職員はもとより皆さまとの信頼関係のもと、誰もが成長できる施設をめざし、運営に努めてまいりたいと思います。引き続き皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、ワークホーム高砂が取り組むクリーニング事業は、病院等の生命や健康に関わる施設に療養上必要な寝具等を提供するもので、生活インフラを支える重要な役割を担っています。加えて私たちは、医療関連サービスマークを所持する事業者として、単なるクリーニングではなく、高い専門性を持って良質な医療の提供をサポートする「誇りある仕事」に取り組んでいると自負しております。お客様が寝具を手にしたとき、穏やかな気持ちで安心して使用いただけるよう、心を込めて作業に取り組みたいです。

一方、ワークホーム高砂は老朽化した設備の更新であったり、近年の異常気象等を要因とする夏場の高温化など作業環境の改善などが課題であり、共働するゴトウ・アズ・プランニング様と引き続き協議を継続し、「働きやすい職場」を目指して課題を解決していきたいと思っています。

また、私たちは就労継続支援B型事業所として目標工賃の達成が使命となっています。このことはゴトウ・アズ・プランニング様もおっしゃる「ダイバシティの実現」とも重ねることができ、同意を得られるものだと思っています。B型事業所だから低工賃であってよいのではなく、労働に対する正しい評価が必要だと思っています。障害の有無、企業理念、価値観の違いはあるかもしれませんが、お互いに多用性を認め合うことが大切であり、工賃の課題についてもわかり合いながら話し合いをすすめたいと思っています。

新型コロナウイルスが5類とされてからまもなく1年が経過し、街には人が戻ってきました。また春闘では大幅な賃上げが行われるなど、世の中は不安定ながらも少しずつ輝きを取り戻しつつあります。

このような時だからこそ、社会と繋がる事業所として、生産活動における品質の確保、働く者の安全と健康に留意するなど、着実に一歩ずつ前にすすんでいきたいと思っています。

利用者、職員の笑顔を皆さまに届けられるような様々な業務改善や余暇活動に取り組んで参りますので、今後とも「ワークホームだより」をご覧いただければ幸甚に存じます。

5月の予定

5月8日(水) 工賃支給日
5月11日(土) 保護者会総会
5月26日(日) のじぎくスポーツ大会

《保護者会総会 ご案内》

開催日時 5月11日(土) 10時00分～

開催場所 ユーアイ帆っどセンター

送迎希望の方は9時30分までにWH高砂に集合

新任挨拶

4月より入社しました山本雅美と申します。看護師という立場ですが、念願でありました障害者支援の仕事をさせていただけることになり、本当に嬉しく思っております。マイペースな性格で至らない点もたくさんありますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



齋藤施設長・児島さんありがとうございました！！



3月29日に齋藤施設長と児島さんのお別れ会を行いました。利用者さんから花束と色紙を渡し、お別れの挨拶をしました。齋藤施設長と児島さんからもお別れの言葉を頂き、齋藤施設長からは利用者さん一人一人に言葉をかけて頂きました。齋藤施設長は理事として、児島さんはGHの友愛の家に勤務されることになりました。今後も、2人のご活躍を大いに期待したいと思います！齋藤施設長、児島さん長い間ありがとうございました。

(野村)

みんなで植えたスイートコーン🎵



4月17日から3日間スイートコーンの植付けを行いました。前日の豪雨、経験したこともない雹で田んぼの状態が最悪でしたが、何とか当日を迎えられることができました。足元の悪い中参加していただいた保護者の皆様ありがとうございました。

無事に3日間で1000本の苗の植付けが完了しました。4月に入ってから作業に追われる日々が続き利用者さんの表情が暗くなっている様にも感じていましたが、利用者さんの楽しそうな表情を見ると改めて余暇活動の大切さを実感させられました。次は7月上旬に収穫作業を行います。今後のスイートコーンの成長を見守っていききたいと思います。次回もたくさんのご参加お待ちしております。(吉中)



お花見・縄跳び・サッカー

4月1日から作業開始の予定でしたが機械の故障により、急遽余暇活動に切り替え、2グループに分かれ花見と縄跳びを行いました。花見のグループでは良い天気の中で散歩をし、公園で桜を見ながら春を満喫してきました。

縄跳びのグループでは一人ずつ何回飛べるかのテストを行いました。普段運動することが減ったと言っている利用者さんもありましたが、皆さん上手に跳ぶことができていました。

空いた時間にサッカーを行ない、利用者さん同士で声を掛け合ってパスをしたり、力強くシュートをしたりと楽しんでおられました。

作業も頑張っていますが、余暇活動も楽しめるよう色々考えていきたいと思っています。(長瀬)



月刊「ワークホームだより」6月号

発行:2024年 5月 24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

開設20周年 次なる未来に向けて - 保護者会の皆さんと創るWH -



ワークホーム高砂副施設長 亀山 隆幸

深緑の6月、新年度が幕を開け2ヶ月が経とうとしています。

この巻頭ページは、齋藤理事（元施設長）が長年綴られていました。“知的障害の方の働くことの意義”、“自事業所のミッション”、“福祉施策や時代の流れ”等、多岐に渡っており、感服していました。私たちも、次なる未来をイメージしつつ問い続けていきたいと思っています。

その“問題意識”こそが、組織・個人の成長に欠かせない燃料だと思っています。

さて、5月号では長谷川施設長がクリーニング事業について綴られました。

今月は保護者会の皆さまに向けて、綴らせていただきます。

ワークホームは、保護者会活動が活発な事業所だと思っています。今年度は新たに2名の新役員が加わっていただき、活動を更に盛り上げて下さろうとしています。

昨年度のトピックスとして、約3年振りの対面行事の再開を始め、前橋農園さんとの協力で実現した＜農福連携行事＞「田植え体験」「稲刈り・新米でバーベキュー大会」の初開催があげられます。今年度は田植えに加え、近隣の休耕田をお借りし、スイートコーンを1,000株植えています。7月中旬の収穫祭に向け、草刈り頑張らねばです。

でも「みんなで食べるって、いいですね!」。最後は皆さん“笑顔”になります。

利用者は元より、保護者や職員も「楽しみ!」と思える企画を無理なくやっていきましょう!

「働く」があるから、「余暇」が活きる。相互のいい関係をもって、新体制の今年度も運営していきたいと思えます。

さいごに、8月発行の法人機関紙あかりだよりで記事を予定していますが、この4月でワークホーム高砂は開設20周年を迎えました。どうぞ、一緒にこれからのワークホームを創っていきましょう! どうぞよろしくお願い申し上げます。

6月の予定

6月12日(水) 工賃支給日

6月29日(土) 作業代替え日

※7月15日(月)にスイートコーン収穫祭を開催するに伴い、作業代替え日を設けさせていただきます。詳細につきましては別紙配布します。

《田植え体験 ご案内(保護者会共催)》

日時:6月16日(日)

場所:ワークホーム高砂、前橋農園田んぼ

保護者会総会

5月11日にユアアイ帆っセンターにて保護者総会を行ない、保護者の方が21名、職員が8名参加しました。今回の総会での議案は全て満場一致で可決されました。

今年度より新たに大内さんと田中さんが企画委員となり、保護者会全体が活性化してくれることを期待しております。

4月から就任された長谷川施設長の挨拶、参加した職員の挨拶をしましたが今年度も保護者の方々と協力しながらワークホームの運営をしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。(長瀬)

今月の担当は野村でした。

スイートコーンの成長

4月下旬に植付を行なったスイートコーンの苗は無事に根付くことができました。ただ、今年は雨天の日が多くなかなか思うように育ってくれません。先日、除草剤を巻きましたが翌日の雨が降ったせいか効果が全く現れず雑草に土の栄養が奪われています。職員総出で草刈りを行い、現状を打破したく思っています。農作業2年目、農業の難しさを痛感しています。7月の収穫時には立派なスイートコーンが実るように育てていきたいと思えます。(吉中)



小さな芽が出てきました！！



Instagram開設



ワークホーム高砂の SNS 第一弾としてInstagramを開設しました。行事や日々の作業の様子、職員の紹介などを随時更新していく予定です！ぜひフォロー、チェックお願いします♪(重田)

ID : @workhometakasago



@WORKHOMETAKASAGO

給食会議

5月8日に給食の提供をしていただいているひでかつ給食さんと給食会議を行いました。今回の会議はひでかつ給食さんで行い、会議後には厨房の様子を簡単に見学させていただきました。夕食の盛り付けをしている最中で、マスク・帽子・手袋を着用しておられ、衛生面も安心だと感じました。原材料の高騰で厳しいこともあります。いろいろなメニューを提供できるように考えてくださっているとのことでした。

6月の田植え体験の後には、ひでかつさんの給食の試食会を実施する予定です。お楽しみに♪(新山)



懇談会



現在、懇談会実施中です！個別支援計画書も新しい形のものに変わります。楠課長が毎日汗水垂らし、利用者さんのことを考えながら作成しました(笑)。家庭での様子、ワークホームでの様子を保護者の方と共有し、より良い支援を行なえるよう充実した懇談会にしようと思っています。言いたいことは全て言ってください！(花岡)

新卒説明会

5月6日に新卒の見学会があり、今回は女性の方1名が参加されました。新卒の説明会をするといつも思うのですが、キラキラと目を輝かせ真剣に説明を聞く姿がとても新鮮に目に映り、こちらもやる気を貰えた感じがします。事業所の魅力を伝えてキラキラした目の新入職員に来て欲しいと思います。(楠)



月刊「ワークホームだより」7月号

発行:2024年6月24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



意思決定支援を考える

ワークホーム高砂課長 楠 英充

6月16日(日)に昨年に引き続き2回目となる「田植え体験事業」を行ないました。今年度も多数の利用者さん、保護者さんに参加していただき無事「ワークホーム米」「なっとこちゃん米」を植え付けることができ、ありがとうございました。秋の収穫が楽しみです。

さて、私は今度よりサービス管理責任者という立場で職務に当たらせていただいておりますが、その中で「意思決定支援」という言葉を強く意識するようになりました。意思決定支援とは、意思決定に困難を抱える人が、日常生活や社会生活等に関して自分自身がしたい意志が反映された生活を送ることが可能となるように、その人を支援することやその仕組みです。

個別支援計画書を作りながら、これまでの「充実した余暇活動」という抽象的な表現ではなく、できるだけ具体的にと思い、この人にとっての人生の豊かな膨らみとはなんなのかを考え、まず何が好きなのだろう? 何がしたいのだろうと悩みました。利用者さん1人1人にアンケートや聞き取りを実施しましたが、これまで行った一泊旅行先へ行ってみたい、これまでやったことをまたやりたいという答えが大部分でした。

まず**選択肢**が少ない! 選択肢とは経験を積み重ね体験によって広がっていくものです。初めての事は難しかったり、とっかかりにくかったりするものですが、まずはやってみよう! もしかしたらすごく楽しいかもしれない、もしかしたらすごく嫌かもしれない、でもやってみなければ分からない事ばかりです。どうしても業務が忙しいという理由で前例踏襲型になりがちですが、行事を通して新たな選択肢を増やすという意味でもどんどん新しい事をやっていきたいと思っています。

作業においては、これまでとおり「大人として働く」を軸にやっていきたいと思っております。ここでも意思決定とは何なのか? で悩みます。「働きたくない」も意思決定? 私たちでも時には「働きたくない」と思う事はあっても大人として、そこは自制して働いています。障害があるからできないではなく、障害があってもできることを探求し、やりがいのある作業を提供できる「大人として働く事業所」でありたいと思っています。

まだまだ、答えを見つけられず、迷い、戸惑いの繰り返しですが、少しでも利用者さんの豊かな人生作りのお手伝いできればと思っています。



7月の予定

7月10日(水) 工賃支給日

7月15日(月) スイートコーン収穫祭

※詳細は別途お知らせします。



スイートコーンの様子

4月末に植えたスイートコーンの苗がこんなに大きくなりました。本来余暇活動の一環として利用者さんと一緒に水やり、草刈りが出来たら一番良かったのですが、今年度は職員総出で作業後に農作業を頑張っています。日々伸びてくる雑草と闘いながら、7月15日の「スイートコーン収穫祭」に向けて枯らさないように奮闘しています。残り3週間弱、気を抜かずおいしいスイートコーンが実るように頑張っています。(吉中)



6月16日草刈りの様子 😊

~2023(令和5)年度の年間平均工賃(月額)~

<就労継続B型事業>...48,063円

<生活介護事業>...24,644円

今月の担当は新山でした。

今年もやってきました！田植え体験！



6月16日に前橋農園 前橋様の全面バックアップの下、田植え体験・草刈りを行ないました。延べ70人にご参加いただき、ありがとうございました。終始賑やかで楽しい雰囲気が漂った3時間になりました。昨年度の反省を活かし、より近隣の田んぼを前橋農園様からお借りすることができ、保護者の皆様には交通整備など随所にご協力していただきました。日頃の作業中には見られない表情を見ることができ、改めて余暇活動の大切さを感じました。育ったお米は秋ごろに収穫体験を行ないますので、たくさんのご参加お待ちしております。そして、ワークホームに通所してきた際には自分たちで植えたお米がどのように成長していくのかを観察して楽しんでいただきたいと思います。(吉中)



実習生受け入れ



東はりま特別支援学校3年生一名が、5月27日から5月31日までの5日間実習に来られました。一度見学会に来ていただいた方です。「タオルを畳みたいです」と本人からの要望があり、タオルや防水シートを畳んでいただきました。緊張や不安もあったと思いますが、一生懸命作業を覚えようとしている姿が見られ、休憩時にはワークホーム利用者さんとも仲良く話し、ワークホームに打ち解けようとされておられました。最終日は本人から「また来たいです」「楽しかったです」と言ってもらいました。また一緒に働くことができれば嬉しく思います。(長瀬)



のじぎくスポーツ大会



今年は久しぶりに複数の利用者さんが参加されました！1500mに小南さん、200mに小林さん、フライングディスクに森崎さんが出場しました。サッカーには梅原さん、泉さん、田中さんが出場していました。陸上競技組でサッカー組の応援に行きました。小南さん以外は久しぶりの出場ということもあり、緊張した表情をされていました。しかし、本番が始まると皆さん集中した表情をしており、ワークホームでは見れないな～と思いながら観戦していました。みんなの頑張りが実り、複数のメダルを獲得することができました！来年もたくさんご利用者さんに参加してほしいと思います！参加された利用者の方皆さん、お疲れさまでした！！(花岡)



一泊旅行の行先が決定しました！

新型コロナウイルスの関係で中止していた一泊旅行を今年から再開します!!!
皆さんの心の準備のために情報を先行公開いたします！

- 日時：9月13日(金)～9月14日(土)
- 1日目 生野銀山→出石そば打ち体験→ぬくもりの宿ひだまり
 - 2日目 城崎マリンワールド→海鮮せんべい但馬

の予定です。仮決定の段階ですので変更等があった場合はご了承ください。ご不明な点があれば担当重田、花岡にお尋ねください。答えられる範囲でお答えします。みんなで協力して良い旅行にしましょう。(重田)



月刊「ワークホームだより」8月号

発行:2024年 7月 25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



第2回法人事例研究会

～ 徹底的な個への関心 ～

ワークホーム高砂施設長 長谷川 博信

6月22日(土)にユアイ帆っとセンターで、社会福祉法人あかりの家第2回法人事例研究会が開催された。

「自閉症・発達障害児を取り巻くインクルーシブ教育の最新状況」と題してノートルダム清心女子大学インクルーシブ教育研究センター長の青山新吾先生の講話があった。講話のなかで「人と人が共に生きる形を追求していく。その中でご本人が自分で考えていく人になっていくための「対話の文化を育てる」こと」の重要性について語られる。そのうえで、私たち支援者は「徹底的な個への関心」が大切なのだという。

次は、地域支援センターあいあむの事例発表「自分らしく暮らすこと」があり、利用者の大内さんの事例が紹介された。ご存じかもしれないが、放課後等デイサービスあかりの家からワークホーム高砂の利用へ移行された方だ。相談支援員がこれらの関係事業所と連携し、本人、家族との対話の中で、ご本人の「思い(想像)」を確認しその思いをかなえていく、そして将来を展望していく、そういった内容であったかと思う。

最後には、「自分らしさの追求」をテーマに、様々な立場で働いている法人あかりの家の職員でグループワークを行った。今回の研修のなかでも度々現れた「意思決定」という言葉。それを支援するためには、私たちは対話が必要であり、ご本人に対する「徹底的な個への関心」と「想像力」が必要なのだろう。

この研修には大内さんのお母さんにも参加いただいた。家族が職員研修に関わることは、「本人中心の支援」と言われるなか、法人にとっても有意義なことであった。

受講後、私の中に断言できる絶対的な答えのようなものはなかった。青山先生のお言葉をお借りすると、この研修は「熱意を持って生きようとする人たちに触れる意味」を考えさせられるものであった。私たちはご本人、ご家族から学ぶことが多い。是非、これからも気軽に職員に話しかけていただくことを保護者の皆様をお願いしたい。



8月の予定

8月3日(土) 健康診断

8月14日(水) 工賃支給日

※8月12日(月)～8月16日(金)の間に保護者参観を予定しています。
詳細は別途お知らせします。

※工賃支給日に身だしなみチェックを行います。



アクエリアス提供



6月中旬頃から暑さが厳しくなってきたため、15時の休憩でアクエリアスを提供しています。みなさんゴクゴクと飲み、あっという間に1本飲み干しています。見ていて気持ちのいい飲みっぷりです。休憩後は班ごとに整列し、元気に作業場へ降りていきます。これからまだまだ暑くなっていくと思いますが、熱中症対策を行いながら、一丸となって頑張っていきます！(新山)



法人感染対策研修会

7月9日、「今後の新型コロナウイルス感染症対策への対応と基本的な感染対策」についての研修に参加しました。現在も感染者数が増加しており、感染を予防するにはやはり手洗いとうがい、マスクを適切に着用することが基本となります。また、換気を行うことが重要な予防対策です。

ワークホーム高砂では手指消毒の徹底と、作業時にはマスクを着用し、窓を開け換気を行い対策しています。夏場においては熱中症予防に留意しつつ、今後も感染対策が維持できるよう努めます。(山本)

今月の担当は、長瀬圭佑でした。

スイートコーン収穫 & お楽しみ会を実施しました♪



6月末から7月上旬にかけてスイートコーンの収穫を行いました。予定より2週間ほど早い収穫になり、協力してくださった前橋様も作物の収穫がこんなに早くなるのは前代未聞だと言われており、農作業2年目にしてすごい洗礼を浴びました。そんな中、皆様の協力があり400本近い収穫ができました。また、スイートコーンを植えたことにより地域の方とも交流ができ、ワークホームの認知が多少ですが出来たのではないかと考えています。これからも積極的にこういった活動を行い、作業だけでなく地域を巻き込めるような活動を行っていきたいと思いました。

また、7月15日にお楽しみ会を実施し収穫したスイートコーンを保護者の皆様の協力のもと焼きとうもろこし、かき氷・綿菓子を提供しました。とうもろこしの丸かじりが初めての方もおられ少し戸惑っておられましたが、食べ始めるとおいしそうに食べられていてこちらも嬉しくなりました。今年も暑い夏になそうですがこの暑さを乗り切る為の行事となればいいなと思っています！ (吉中)



法人事例研究会

6月23日に第2回法人事例研究会が行われました。昨年度はワークホームが主幹事業所として行った事例研究会でしたが、今年度は地域支援センターあいあむが主幹事業所として事例発表会を盛り上げてくれました。日頃、関わらない事業所の取り組みなどが知れ、法人内の垣根を超えた関りができ大変有意義な時間になりました。これからも横の繋がり、縦の繋がりを大事にしながらより良い法人を作って行ければと思います。 (吉中)



虐待防止啓発週間

昨年度から法人全体で虐待防止啓発週間を設定して取り組んでいます。今年度は年に2回啓発週間を設け、虐待に繋がる恐れのある小さな芽を職員全員で摘み取ろうという事で7/15~7/27の期間で実施しています。日々の業務の中で支援者として当たり前になってしまっていることが、利用者さんにとってどうなのか？なにより我々が支援をする中でどんな表情で支援にあたっているかを見直すきっかけとしていきたいと思っています。 (楠)



月刊「ワークホームだより」9月号

発行:2024年 9月 23日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



ワーク・プライド（誇り）

- あかりだよりの寄稿から見る20周年の意義 -

ワークホーム高砂 副施設長 亀山 隆幸

8月発行の法人機関紙「あかりだより No. 34」。ワークホーム高砂は表紙と20周年記念の3ページを担当しました。寄稿いただいた3名のお言葉を何度も読み返しています。20周年を押しさえないと、30周年は語れないと思うからです。

- ① (株) ゴトウ・アズ・プランニング 安杖 取締役
- ② (社福) あかりの家 三原理事長
- ③ (社福) あかりの家 ワークホーム高砂 長谷川施設長

の3名の方からの祝辞や謝辞。そこには、ワークホーム高砂の20年間の〈活動の意義〉や〈誇り〉を見ることができます。ピックアップさせていただきます。

1. 「設立理念」と20周年

(安杖 取締役)

あかりの家の設立理念の一節、「ともに生きるという存在そのものの連帯が人間社会、生物社会において唯一の真実と思える」を受けて、「働く」ということの実践の場の展開。

(三原理事長)

福祉と企業のそれぞれの特性を生かして、福祉の側から本格的な仕事を提供しよう。

そして、同等に有益な事業を追求。

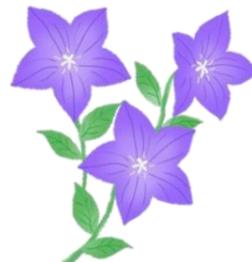
2. 「活動意義」と20周年

(長谷川施設長)

すべての仕事は社会と繋がっており、中でも我々のクリーニング事業は病院や福祉施設への寝具等の提供を通じて、生活インフラを支える重要な役割をもつ誇りある仕事である。

3. ワークホームの利用者の日常 = 誇り (三原理事長 原稿より)

- A 変わらぬ利用者の皆さんの明るい挨拶
- B 利用者の出勤率が非常に高い
- C 働くことへの誇りある表情。そしてそれは支援者としての喜び
- D 働くことで彼らの人生が豊かになり、それを更に次に繋げていく



ゴトウさんとの協働関係を始め、多くの方々のご理解と利用者・職員の踏ん張りによって迎えることができた20周年。今回の貴重なメッセージを30周年に向けて、追求する覚悟です。

9月の予定

9月 11日 (水) 工賃支給日

※工賃支給日に身だしなみチェックを行います。

9月 13日 (金)

~14日 (土) 城崎一泊旅行

9月 28日 (土) 保護者研修会

(青葉仁会事業所見学)

給食アンケートを行いました♪

8月21日の給食会議に向けて、給食アンケートと題し給食の感想や「こんなものが食べたい!」といったリクエストなど、なんでも自由に書いていただきました。今まで口頭では何度か聞いていましたがなかなか意見が出ませんでした。アンケートにして紙に書いていただくと皆さんスラスラ書いて下さり、毎日の給食をととても楽しみにされていることが伝わってきました。一部内容を紹介します。

- ・「いつもおいしい食べています。ふりかけは毎日入れてほしいです。」
- ・「ローストビーフが食べたいです」
- ・「おでんがおいしい すき たきこみごはん すき ソースのうどんが すき」
- ・「ゴーヤいため食べたいです」
- ・「トウモロコシの芯はいらないのでとってほしい」
- ・「夏にアイスクリームをだしてほしい」

とても具体的でありたいご意見としてひでかつ給食さんと共有させていただきます♪



福田 聖悟
おいしいよ
とりに肉
ふた肉

また、おがめご飯と
炊き込みごはんが食べたいです。



あかりだより

今月の担当は、重田でした。

夏休みお仕事体験会

7月30日、8月6日、8月20日、8月27日に中学生・高校生の計8名の方がお仕事体験会に参加されました。

「働く」ことが初めての方もおられ、緊張や不安な気持ちがある一方でワクワクしている様子でした。暑い中でしたが一生懸命取り組んでおられ、綺麗に畳めた時や終わった時にはとても嬉しそうなお顔をしておられました。

今回のお仕事体験を通して少しでも「働く」ことが楽しいと感じてもらえれば嬉しく思います。(長瀬)



今年もみんな健康診断!



8月3日(土)にワークホーム高砂、納豆工房なっとこちゃんの両事業所の利用者及び職員の健康診断をワークホーム高砂で実施しました。

関係書類の提出などにご協力いただきありがとうございました。

注射が苦手な利用者さんも支援員に見守られ、励まされながら採血してもらっていました。終了後、頑張ったね!と褒められ嬉しそうにされていました😊

なお、健康診断結果は後日お知らせをいたします。今回の結果を踏まえ、精密検査の必要性があれば病院受診やかかりつけ医への報告をよろしくお願いたします。(山本)



ソーシャルワーク実習受け入れ



関西福祉大学の学生さんが、法人あかりの家での実習24日間のうちワークホームに6日間学びに来られました。

ワークホームの暑さに驚きながらも積極的に利用者さんと関わり、楽しそうに過ごされていました。

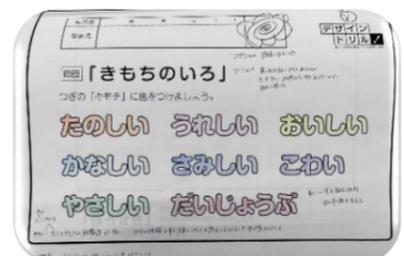
ワークホームの利用者さんや職員の楽しい雰囲気を感じ、就労支援の現場に少しでも興味を持っていただけたら幸いです。(重田)

ばんたん地区職員研修会



7月23日(火)に播磨地区職員研修会に参加しました。今回の研修は『アートでつながる福祉 自分の「できる」を活かす支援』というテーマでした。研修はデザインドリルというものを使って、実際に色を塗ったり簡単な絵をかいてみたりとワークを中心に行われました。アートと聞くとハードルが高いように感じていましたが、この研修に参加してみて、少しの工夫で誰でも簡単にはじめることができるようになりました。いきなり「好きに描いてください」と紙を渡されても戸惑う人がほとんどだと思いますが、「絵を描く」ではなく「マスを塗りつぶす作業」と設定してドット絵を作ったり、一つのマーク、例えば○をいろんな色で100個描けばそれも立派なアートになります。ひとりひとりの特性に合わせた工夫をすれば誰でも気軽に始めることができると感じました。

講義では「アートは積み重ね。描いた人の積み重ねた時間がアート(絵)に出る。」というお話を聞きました。作業中心のワークホームですが、少しずつ始めることができれば良いなと思いました。(新山)



月刊「ワークホームだより」10月号

発行:2024年9月24日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



久しぶりの一泊旅行を終えて

～私たちに求められる事業所の役割とは～

ワークホーム高砂 楠 英充

9月14日(金)、15日(土)の両日に5年ぶりとなる一泊旅行へ行きました。私は10日前に突然どうしても外せない研修が入ってしまい残念ながら不参加となってしまいました。コロナ禍で旅行が中止となっている間に職員の入れ替わりもあり、一泊旅行を経験したことがある職員は私だけとなり、どうなる事かと心配していましたがワークホームで留守番中に送られてくる楽しそうな利用者さんの写真を見て安心し、行けなかった事がとても寂しく感じていました。(笑)

今回、担当職員がしっかりと事前準備を行い、他の職員がそれをサポートして無事に旅行を楽しいものにしてくれました。年度当初から常に意識している事ですが、「これまでこんな事をしていたので、今回もこう！」というのでは無く、良いところは残しつつ今いる職員で新しい形を作り上げていくという点においてはとても良かったと思っています。

話は突然変わりますが、下記の計算式が何かわかるでしょうか？

$$5,713 \text{ 億円} \div 375,084 \text{ 人} \div 12 \text{ ヶ月} = 126,927 \text{ 円}$$

これは、就労系福祉サービスの報酬予算÷就労系サービスの利用者数÷月割り=1人当たりの金額

このように就労系福祉サービスで事業所に支払われる報酬を利用者さんに均等に分配すれば月額126,927円という金額を受け取ることができます。この金額をどう受け取るでしょうか？ちなみにワークホーム高砂が行なっている就労継続B型では次のようになっています。

$$3,841 \text{ 億円} \div 269,339 \text{ 人} \div 12 \text{ ヶ月} = 118,840 \text{ 円}$$

B型の平均工賃は全国16,369円 兵庫県14,914円(令和4年度)

これを見て事業所職員は何を感じるのか？利用者さんに対して何が提供できるのか？就労系福祉サービス事業所として求められる事とは何か？等、一泊旅行の留守番の間、作業をしながら1人考えていました。これから「大人として働く」という事業所理念を大切に、事業所として何が出来るかを職員全員で考えていきたいと思っています。



10月予定

10月9日 工賃支給日

10月14日 曾根天満宮秋祭り見学

10月19日 工場メンテナンス

職員会議 8i



来年度からよろしくお願ひします(*^▽^*)

9月10日に東はりま特別支援学校3年生の6名の生徒さんと実習の事前面談を行いました。10月から始まる実習に向けて生徒さん方の意気込みを聞かせてもらいました。

それぞれ目標を立て、力強く発表している姿をみると、以前実習に来てた頃よりも少し凛々しく見えました。緊張や不安もあると思いますが、色々な作業を体験していただき、ワークホーム高砂で働くことが楽しいと思っただけいたら嬉しく思います。また、実習生のお手本となるよう日頃よりも遅く作業をしてくれる先輩利用者さんたちの姿が見れることも実習の醍醐味だと思っています。みんなで楽しく作業を頑張りましょう！！ (長瀬)

初任者研修“意思決定支援”に参加しました！！

9月10日に新任研修を受けてきました。今まで漠然と意思決定支援について「利用者さん選択してもらうこと」と考えていたが実際には、「支援付き意思決定支援」と「代理代行決定」の2種類があると学ぶことができました。

意思決定支援の中で陥りやすいミスが【〇〇さんのために】という考えのもと、支援を進めてしまうことで、そこには本人の意思が介在せず職員の選定が入ってしまい本来の「支援付き意思決定支援」から「代理代行決定」になってしまうことがわかりました。自身もそのような支援をしてしまうため、改めて支援のやり方を見直す機会となりより、良い研修会になりました。(村上)

今月の担当は、吉中でした。

念願の一泊旅行に
行ってきました(*^^)v
in城崎

温もりの宿ひだまり



初めての一泊旅行6人衆



生野銀山



アジ釣り最高(*^^)v
美味しく頂きました♪



楽しい思い出がたくさんできたね！！



【そば処出石城】

自分たちで打って作ったお蕎麦はい
つも食べるお蕎麦より格段に美味
しかったね👍👍



また来年度もみんなで行こう(≥▽≤)

コロナが5類となり、初めての一泊旅行に行ってきました。みんなとても楽しみにしており、仕事の休憩中は旅行の話で盛り上がっていました。

1日目は、生野銀山とそば打ち体験をしました。生野銀山の中にある人形に興味している利用者さんもありました。(笑)そば打ち体験はみんな上手に包丁を使って切ることができていました。自分で作ったそばを食べる、とても良い経験になったと思います。

「ホテルひだまり」では美味しいご飯を食べながら、利用者さんに自己紹介をしてもらいました。職員が作った質問カードを引き、それぞれ答えてもらいました。利用者さんの知らない一面を聞くことができ、とても有意義な時間となりました。

2日目は城崎マリンワールドへ行きました。イルカショーを見た後は各班で好きな場所へ。色々な魚を見たり、アジ釣りを楽しんでいました。

初めて一泊旅行に行った利用者さん、職員たくさんいました。事故もなく無事に帰ってこられてホッとしています。来年も一泊



月刊「ワークホームだより」11月号

発行:2024年 10月 25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

雑感



ワークホーム高砂施設長 長谷川 博信

10月17日、俳優の西田敏行(76歳)が亡くなったとの報道があった。西田氏の主な活動は“西遊記”、“池中玄大80キロ”、“釣りバカ日誌”などへの出演や探偵ナイトスクープの司会、歌手として“もしもピアノが弾けたなら”がヒットしたなど長きにわたり多くのものがあった。私が印象に残った作品は映画“敦煌”での朱王礼を演じた姿だった。人間味のある武将の姿が凛々しく見え、記憶に鮮明に残っている。「敦煌」では、特に後世に敦煌文献として遺されることとなった歴史的書物を、若者が命がけで戦乱から守るシーンがあり、その場面を思い出す。

奇しくも先日(10月11日)、歴史を語り継ぐ者として日本原水爆被害者団体協議会にノーベル平和賞が授与されるとの報道があった。世界の指導者たちが核の脅しを行っている中、約70年間世界に核兵器使用の惨状を語り継ぎ、知らしめてきたことが評価された。

話を戻すが、長きにわたり多くの活動を行った西田氏だからこそ生まれた世代や触れた作品によって人それぞれに西田像は異なるだろう。人間ひとりにはいろいろな顔があり、関わりによって見え方が異なることをあらためて思いおこす。私は職場で泉元明石市長の言葉を借りて“やさしさは想像力の翼”と言い、「想像力」の大切さを話すことがある。西田氏の死に際して、人間ひとりにはいろいろな顔があり自分自身に問いかける想像力が必要で、加えて世代を超えて、違った関係を持つ人の意見を聞き、感じるものの大切さを改めて想起する。

さて、ワークホーム高砂の課題には「労働に見合った工賃」がある。一方、B型事業所の前身には仕事に就くことが困難であった障害者に対して、障害をもつ子の親などが地域で働く場を提供したいと願い、作った小規模作業所が多くあったという歴史がある。作業への思いは関係者の生い立ちや世代、関わりによって違うのは当然のことだ。ワークホーム高砂のより良い作業環境づくりのために手を緩めるつもりはないが、作業があることのありがたさを今一度思い出し、語り継がれる歴史と想像力を働かせ、感じ方の違いを共有したうえ職員が一丸となって改革に取り組みたい。

～ 11月おしらせ ～

11月2日(土) 稲刈り&バーベキュー

11月13日(水) 工賃支給日

11月30日(土) 保護者会役員会

～実習生情報～

東はりま特別支援学校3年生の方が10月7日～10月11日、10月15日～10月18日、10月21日～10月25日、各2名、3回の実習に来られました。

今回の実習は来年度からの通所を想定した実習と位置づけ、1人ひとりの特性が活きる作業を念頭携わっていただきました。前回の実習とは違った作業に挑戦しましたが、皆さん一生懸命に覚えようと意欲的に取り組まれていました。

実習生の皆さんはまだまだ覚えることはたくさんあると思いますが、少しずつでも成長を感じ充実した生活が送れるよう応援していきたいと思います。(長瀬)

いなみ野特別支援学校見学会

10月18日、いなみ野特別支援学校 中等部2年生の24名が見学に来られました。中等部2年生ということもあり、初めて福祉事業所の見学をする生徒さんもたくさんいました。これから中等部を卒業して高等部へと進む中でできるだけ多くの事業所を見学し、自分に合った事業所等を見つけてもらいたいです。また、現場では作業に挑戦していただきました。今回の見学・体験が、少しでもより良い経験となれば幸いです。(吉中)

保護者施設見学会～青葉仁会～

9月28日(土)に保護者会研修会で奈良県にある青葉仁会へ事業所見学に行きました。

青葉仁会はカフェレストラン、製菓、製パン、食品加工、農業、木工、アートなど様々な領域で事業を展開しています。

今回の事業所見学では1日で5つの事業所をめぐるハードスケジュールでしたが、お土産を買ったりアイスを食べたり終始和やかな雰囲気で見学することができました。ワークホームのこれからや、ワークホームで働く利用者さんの将来を考える良い機会となりました。

(重田)



👏 20周年記念Tシャツ完成 👏

ワークホーム高砂20周年を記念して、保護者会より20周年記念Tシャツをいただきました！ありがとうございます。左胸のロゴには大内雄喜さんが描いてくださった、だるまの絵を採用しました。前から見ても後ろから見ても素敵なTシャツです。配布した次の日から早速Tシャツを着て通所されている利用者さんもいらっしゃいました。

保護者の方にも実費にはなりますが購入可能ですので、ぜひ親子揃いで着用していただければと思います。詳細につきましては別途お知らせしますのでご確認をお願いします。(新山)



ワークホーム高砂からステップアップ!

清掃業務基礎訓練に参加

就労移行に向けての実践練習として、「清掃業務基礎訓練」にワークホーム高砂から棒谷高士さんが参加しました。1日目は社会人として働く為に必要なマナーの講義、2,3日目はビルメンテナンス協会の方々にモップやほうき等の清掃道具の扱い方、清掃の仕方を教わりました。最終日には修了証を頂き、今後の自信に繋がったと思います。ワークホームではなかなか学ぶことができないことを教えてもらい、貴重な体験ができた3日間だったと思います。利用者さんのスキルアップの為に、今後もこのような研修に参加していければ良いなと思いました。(花岡)



三菱重工説明会

三菱重工(株)の会社説明会に参加しました。ワークホーム高砂から棒谷さん、泉さん、花岡の3名で行って来ました。会社概要や職場の紹介、障害者雇用の選考会の説明を聞きました。説明を聞いた後は会社の敷地内を見て回りました。以前ワークホーム高砂に在籍していた藤野敬太さんの姿は見かけることはできなかったのですが、三菱重工の方から「今日の会議室のレイアウトは藤野さんも準備してくれていました。頑張っています。」とのお言葉をいただきました。藤野さんに続いて、ワークホーム高砂からステップアップできる利用者さんが増えていくように、職員一同より良い支援をしていこうと改めて感じました。(花岡)



月刊「ワークホームだより」12月号

発行:2024年 11月 21日 発行者:ワークホーム高砂
 〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
<http://workhome-takasago.org/> E-mail workhome@nifty.com

12月の予定

- 12月11日(水) 工賃支給日
- 12月21日(土) クリスマス会
年末年始の予定
- 12月28日(土) 作業最終日
- 1月4日(土) 作業開始日

播淡地区研修会

11月13日に播淡地区研修会に参加しました。今回の研修は講義だけでなく、車椅子バスケットも行いました。私自身、障害を持った方から講義を聞くことが初めてでとても新鮮な気持ちになりました。講義の中で、障害とは何か?という問いに僕は「個性」だとこれまで考えてきました。大内講師は「困りごと」と仰っていました。お互いにとっての困りごとを一緒に解決していく。そうすれば自ずと社会は変わっていくと伝えられました。少し考え方を考えるだけで視点が変わり今まで悩んでいたことがスッと晴れたような気持ちになりました。車椅子バスケットを初めて体験しましたが、不慣れで身体の使い方が分からず翌日には上半身が筋肉痛になりました。今回の研修も充実した研修になりました。(吉中)



人材確保が法人の未来を握る - 「ワークホームには実習生が常にいるよね～」

ワークホーム高砂 副施設長 亀山 隆幸

今年度、ワークホーム高砂では日本福祉大学と兵庫大学より2名、社会福祉士養成に係るソーシャルワーク実習を受け入れた。約30日間をワークホーム単体ではなく、納豆工房と相談支援事業所あいあむの3事業所で実習プログラムを組んだ。これが好評である。



<実習生 A さんの声>

“漠然とした不安があります”と、緊張の面持ちからの実習スタート。

それが最終日の反省会では、「漠然とした不安」の正体は、『知的障害のある方たちとコミュニケーションがうまく取れるか?』だったことが分かりました」と言葉にされた。

Aさんは「ワークホームの昼休憩時間、利用者同士がワイワイ話している雰囲気が好き」「そこで興味ある話題を探りながら、会話を深めていけた」とご自身のスタイルを作っていた。

手応えを感じて、実習を終えられたと思う。この仕事のオモシロさを事業所側が提供できるかどうか?がカギを握る。

3事業所によるソーシャルワーク実習プログラム

事業所	提供できる要素
1 WH 高砂	クリーニング工場というダイナミックな環境下で、知的障害のある方たちと“働くこと”、“仲間同士のコミュニケーション”の応援等を学ぶ。
2 納豆工房	食品衛生に配慮しつつ、特性に応じた作業工程を用意。そのコミュニケーションを始め、納豆販売を通じた社会参加、地域交流の展開を学ぶ。
3 相談支援事業所 あいあむ	相談への陪席、個別支援計画作成。基幹相談支援センター、自立支援協議会など、より広義な役割が求められる事業所の役割や関係機関との連携を学ぶ。

<採用開拓に当たって法人メニューを>

採用の募集要項をもって大学へ挨拶周りをするだけでなく、こちらが何か提供できないか? その一つがこの実習受け入れ、大学と関係が深まる中で、サークル等と何か共同企画を展開できないか?

<人材確保が未来を握る>

団塊のジュニア世代が65歳になる2040年には65歳以上の人口が35%を超える。

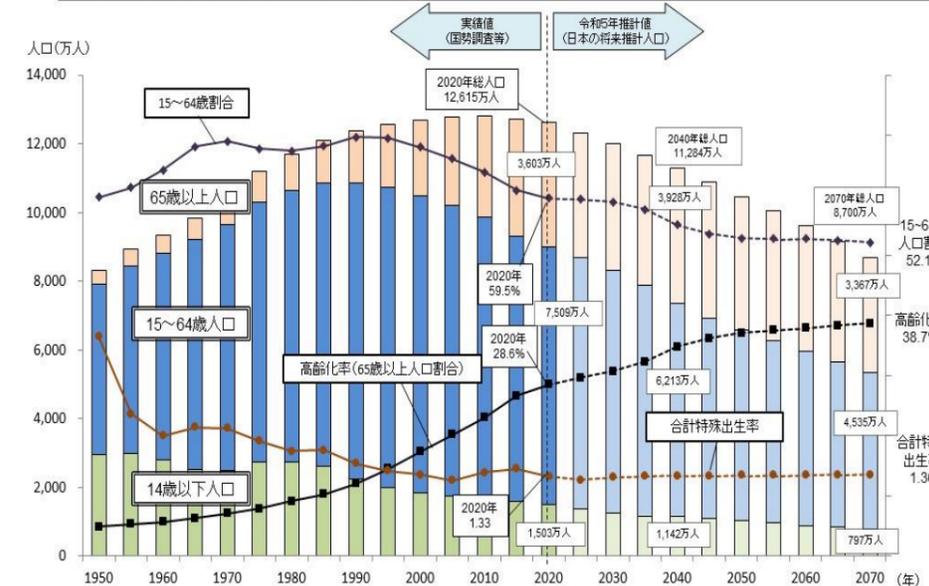
そして、生産労働人口(15歳以上~65歳未満)は2020年の7,059万人に対し、2070年には4,535万人と大幅な減少が見込まれている。

他産業と労働力の奪い合いになっていく。ここに福祉が絡んでいくには、相当な策とアクションを起こしていく必要がある。

「ワークホームには、実習生が常にいるよね～」はそのひとつ。

日本の人口の推移

○日本の人口は近年減少局面を迎えている。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」、(出生中位(死亡中位)推計)

食欲の秋！新米を食べよう！バーベキュー大会！



11月16日にばんたんゆうあい作品展の作品作りとおにぎり作り体験、バーベキュー大会を実施しました。作品は、7月に試食を行ったスイートコーンの芯を使ったアート作品をみんなで作り、終始和やかな雰囲気で作成を楽しみました。制作の合間に6月に行った田植え体験のお米が実ったので新米を使いおにぎり作り体験も行いました。熱々のお米に皆さん悪戦苦闘、様々な形のおにぎりが完成しました。バーベキュー大会では、雨も少し降りましたが実施することができました。今年度も大盛り上がりで延べ72の方が参加してくれました。今年度はバーベキュー大会を持って農福連携の行事は終わりですが、来年度も楽しい行事となるように企画をしていきたいと思っております。たくさんのご参加ありがとうございました。(吉中)



実習生受け入れ

東はりま特別支援学校2年生の3名の方が10月28日～11月1日、11月18日～11月22日に分かれて実習に来られました。タオルや防水シート等を畳むことから始めましたが、各々のペースで最後まで作業をやり切ることができました。不安や緊張が続いた5日間だったと思いますが、ワークホーム高砂での実習が少しでもいい経験になり、将来の選択肢の一つになれば嬉しく思います。(長瀬)

病院寝具管理士認定講習会

10月29日、30日大阪で開催された病院寝具管理士認定講習会に花岡と野村の2名で参加してきました。正直、初めて聞くことの方が多く、良い学びの場となりました。ワークホーム高砂で実践できていない部分もあった為、GOTOさんと協議し、もっと良い事業所にしていこうと思いました。(花岡)